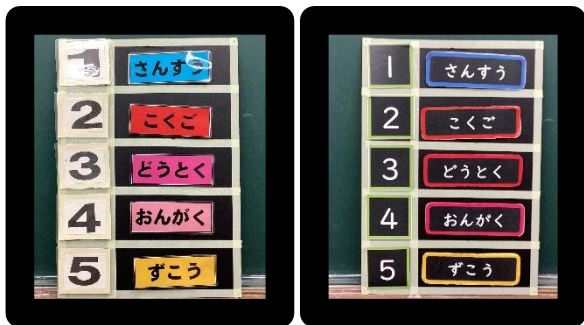


こんにちは。研修部の犬童です。私は昨年度今年度と小学部1年生の学級担任をしています。いずれも弱視の児童です。今回は私が担当した弱視の児童の「学習環境」について御紹介します。御存知のことばかりではないかと思いますが、児童の実際の様子を知っていただきながら、弱視児の視覚認知における配慮について、今一度考えられる時間となれば幸いです。

○学習環境1「掲示物」



時間割になります。写真左側は昨年度の児童用に作ったラミネート加工したカードを使用しました。今年度の児童には黒地に白文字にして、眩しさを感じにくいよう配慮しました。掲示物は児童の見え方によって、素材やコントラスト、文字の大きさを考慮し提示しています。平仮名を覚えると自分で時間割を張り替えることができるようになりました。

○学習環境2「机上の様子」



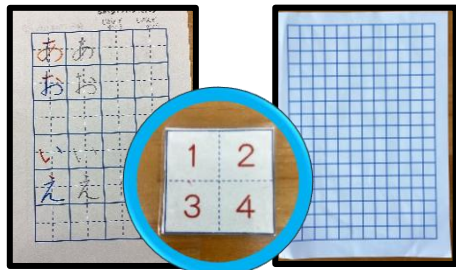
写真左：昨年度の小1児童2名。書見台に教科書、ノートを置き、書いている様子。

写真右：今年度の小1児童。タブレット教材を活用し平仮名のなぞり書きをしている。右側に筆記用具の入ったケースを置いている。

授業中は必ず書見台を使用しています。書見台は、疲れずに姿勢を維持することと、視距離と明るさの確保をしてくれます。角度調整も徐々に自分でできるようになっていきます。本校の児童生徒が使用している机は面積が広いです。これは書見台、拡大教科書、ノート、単眼鏡、筆記用具等、様々な道具が同時に置けるようにするためです。鉛筆や消しゴムは授業中に使う頻度が一番多いですが、そのまま机に置くと転がって落ちたり、どこに行ったか分からなくなったりします。そのため、利き手側にケースを置くようにしています。

○学習環境3「ノート」

小学部に入学し、文字の読み書きは、様々な学習を行う上で最も重要な学習となります。しかし、弱視児は、細かい部分がよく分からず、画数の多い漢字は似ている漢字と間違えやすく、読んだり書いたりすることが課題となる場合があります。正しい文字を書くことができるようになるために、初めは一画一画がはっきりと見える大きさのマス目のノートを使います。1マスの中身も4分割して番号を割り振り、どの番号から書き始めるかを確かめて書くようにしています。



書き順を色で分けて示したり、手本をすぐ横に置いて見比べながら練習できるようにしたりすると丁寧に書こうと意欲的に取り組みます。一文字ずつ正しい書き順で文字の書き方を覚えるようになります。書ける文字が多くなり、文章を多く書くことができるようになると、マスの大きさを徐々に小さくしていきます。

今回御紹介した内容は、「新・視覚障害教育入門 青柳まゆみ・鳥山由子 編著」を参考にしています。今年度、視覚障がい教育教育研究会でも購入する予定です。研修室に置きますので、是非先生方お手にとって御覧ください。また、明星視覚支援学校の小学部1・2年は、明るく元気な児童3名です。2棟1階の教室にも遊びに来て、話し掛けていただけると嬉しいです。